

まほろば【校長室だより】

[文責]

校長 江口 尋信

「愛着(アタッチメント)形成」について

学校運営協議会で、会長である原陽一郎先生から「愛着(アタッチメント)形成」についてお話をお聞きしました。原先生は、筑紫女学園大学の初等教育・保育を専門とされている先生で、毎回、学校運営協議会で貴重な意見や助言をくださいます。原先生のお話をきっかけに、書籍やインターネットを使って「愛着形成」について調べてみました。「愛着形成」とは、乳幼児期に家族との関係を通してつくられる「心の絆」のことです。乳幼児は、家族から愛される経験を通して愛着を形成していき、それがうまくいくと、①自分や他者に対する基本的信頼感、②自律性や自分の能力に対する根源的自信、③他者の気持ちの理解や共感性、④脳や身体の発達、の4つが得られることが実証されています。愛着形成のためには、安心できる環境をつくる、呼ばれたら返事をしたり反応したりする、愛情を言葉で伝える、スキンシップをとる、コミュニケーションをとる等の養育態度がカギになるようです。

児童期(小学生の頃)の愛着形成は少し違ったものになります。児童期には、感情や自立心がはっきりしてくるため、養育者は自分の思いだけで子どもの行動や問題に介入するのではなく、子どもの伴走者となり、時には子どものやり方を認めることが大切になってきます。また、家族だけでなく、友だちや教師との愛着形成も意味をもってきます。教師と子ども、子ども同士の「心の絆」をつなぐための具体的な取組について、原先生にも教えていただきながら考えていきたいと思っています。

「第2回 なんでも発表会」が開催されました！！

16日(月)の昼休み、集会委員会による「第2回 なんでも発表会」が開催されました。「なんでも発表会」とは、自分の得意なことをみんなの前で披露する集会です。前回もいろいろな得意なことが披露されましたが、今回もピアノやダンス、体の柔らかさ、手品、縄跳びの二重跳び、紙飛行機の長距離飛行など、様々な得意なことが披露されました。



左)体の柔らかさを披露している児童 右)ピアノ演奏を披露している児童

持ち時間1分の中で、自分ならではの得意なこと・好きなことを披露しました。

小学生の頃、人見知りで極度のあがり症だったわたしは、体育館のステージどころか、教室で発表することでさえドキドキして仕方がありませんでした。ステージ上で堂々と発表する子どもたちを見ながら、ただただ感心させられました。これからの時代、自分の心を開き、表現したり主張したりする力はますます重要になってくるはずです。体育館に集まってきた子どもたちは、発表した子どもたちに惜しみない拍手を送っていました。こういった温かい気持ちをもった子どもたちも素敵でした。